

千葉史協だより

第60号

発行：千葉県史料保存活用連絡協議会 〒260-0013 千葉市中央区中央4-15-7 千葉県文書館内 TEL. 043-227-7552 FAX. 043-227-7550

東京大学史料編纂所における史料保存と活用について

東京大学史料編纂所教授 高橋 慎一郎

1. はじめに



私は、鎌倉について、研究をしています。「鎌倉と千葉」は、結構深い関係があります。鎌倉市役所の前に、スーパーの紀ノ国屋がありますが、鎌倉時代に下総の千葉氏が屋敷をもっていた伝承があり、「千葉地」という地名が残っています。その周辺の遺跡を「千葉地

遺跡」「千葉地東遺跡」といい、千葉という言葉が普通に耳に入っていました。

実際に千葉に調査に来ることはあまりなかったのですが、千葉と鎌倉の関係は以前より気になっているテーマの一つになっています。

市川市の中山法華経寺には、貴重な所蔵文書がありますが、そのなかには、中世の千葉氏が鎌倉の市中でどのような生活をしていたかが解明できる文書が残されています。例えば、千葉氏が鎌倉でお金を借りて、借金取りが取り立てに来るなどの話が書かれています。

都市生活は、現金生活が中心なので、少額のお金のやりとりをすることが面倒であるといったことが解明できた大変貴重な史料が残っています。千葉氏との関係というのは、都市鎌倉の歴史を学ぶ中でも、結構意識しているところではありました。

2. 東京大学史料編纂所とは？

史料編纂所（以下「編纂所」）は、本郷キャンパスの中にある一研究所です。東京大学の附属の研究所という扱いで、一つの部局なので、学部と

同じ態様で、文学部・工学部などと同じ位置付けです。

編纂所は、また前近代の歴史の研究に特化しています。前近代とは、明治以前の歴史、幕末維新までの歴史をさします。

「編纂」という言葉は、「編集」とは違います。この場合の「編纂」は、「編集という作業に加えて、研究を含めて創出していく」ことを意味します。編纂所の主要な業務は、日本史に関する史料の研究と史料集の編纂・出版です。

最近の史料集は、図録・写真・カラーの図版などが入っており、大分変わってきてはいますが、基本的には漢文が多く並んでいるイメージかと思っています。では史料集が何故必要か。大河ドラマ・小説も含めて、フィクションと歴史学と何が違うかということ、それは確固たる証拠・根拠があるか否かということのの違いです。

例えば、今年是大河ドラマ「光る君へ」が放映されていますが、藤原道長と紫式部の話が中心のドラマです。紫式部と道長が以前から恋仲であったか否かは、証明されていません。ドラマというのは、フィクションです。それに対して歴史学というのは、明白な状況証拠や直接証拠がない限り、それを立証してはいけない学問ですので、「根拠となる史料・証拠」が必要になります。

それを、学界だけでなく、社会に対して提示していくのが史料集を刊行することの意義になります。これを基にして歴史を皆で考えていくときの、根源になる材料を提供する、歴史学の一番の根幹を支えているのが史料集の編纂という作業になります。

編纂所の活動につきましては、史料編纂所のWebサイトがありますので、そちらが非常にわかりやすいと思います。

3. 史料編纂所の歴史

史料編纂所の歴史は、江戸時代にまで遡り、その創始は、寛政5（1793）年に国学者・塙保己一